



Windows Server 2003 のインストール

この章の内容は、次のとおりです。

- [内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール, 1 ページ](#)
- [ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール, 3 ページ](#)

内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール

ここでは、Cisco UCS Manager GUI と KVM コンソールを使用して、内部ドライブに Windows Server 2003 Service Pack 2 (SP2) x86 または x64 をインストールする方法について説明します。

その他のバージョンの Windows Server 2003 はサポートされていません。

はじめる前に

[インストールの前提条件のチェックリスト](#)と[サービスプロファイル設定の前提条件](#)に説明されている前提条件を満たします。

手順

- ステップ 1** 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS B-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。
- ヒント** 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。デバイスが初期化されると、ブートプロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。詳細については、[インストール ドライバの情報](#)を参照してください。
- ステップ 2** 仮想メディアから OS またはドライバをインストールする場合、**KVM コンソール**を起動し、[インストール ISO イメージのマウント](#)の説明に従ってメディアをマウントします。
- ステップ 3** 次の手順で、マス ストレージコントローラまたは SAN HBA デバイス用のドライバ IMG ファイルをマウントします。
- a) [Add Image] をクリックし、デバイスとオペレーティング システムのドライバ IMG イメージ ファイルが含まれるディレクトリに移動します。

- b) IMG イメージファイルを選択し、[Open] をクリックします。
- c) デバイスをフロッピーとしてエミュレートするかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- d) [Client View] 領域で、IMG 仮想フロッピーに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。

ステップ 4 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。

- KVM コンソールの [KVM] タブを開き、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
- Cisco UCS Manager GUI で、[General] タブの [Actions] 領域の [Reset] をクリックします。
- 物理サーバの電源ボタンを押します。

ヒント サーバがインストールメディアからブートしない場合、[サービス プロファイル設定の前提条件](#)の説明に従って、関連するサービス プロファイルに正しいブート順が設定されていることを確認します。

ステップ 5 通常のブート順を上書きし、インストールメディアからブートするには、**KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブートメッセージを確認し、[Boot Menu] を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。

ステップ 6 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。

- ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
- 物理インストールディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスク ドライブを選択し、Enter を押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが開始されます。

ステップ 7 CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。インストールプロセスの初期にウィンドウの下部に表示される [Press F6 to install third-party drivers] というメッセージに注意します。

重要 [Viking eUSB] と表示されているドライブには、Windows 2003 OS またはドライバをインストールしないでください。OS では、eUSB ドライブはローカルドライブと同じと見なされますが、Cisco UCS Manager では、サーバのブートドライブとして使用するローカルドライブを指定できません。UCS Manager では、常に物理ローカルドライブからサーバが起動され、内部 USB (eUSB) ドライブがあっても無視されます。

ステップ 8 仮想フロッピーからマスストレージコントローラまたは HBA デバイスのドライバをインストールします。

- a) サードパーティのドライバをインストールするように求めるメッセージが表示されたら、F6 を押します。追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されるまで、インストールプロセスを確認します。
- b) 追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されたら、S を押します。
- c) リストからデバイスを選択して Enter を押します。

仮想フロッピーからドライバがインストールされます。

- ステップ 9** 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに回答してインストールを完了します。
- Windows のインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Del を押し、ログインして Windows デスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。Windows インストール プロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。
- (注) この時点では、サーバチップセットやイーサネット コントローラなどのデバイス用のデバイス ドライバがまだインストールされていません。Windows Device Manager で、ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。
- ステップ 10** Windows File Manager を使用して、手順 1 で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。ドライバ DVD フォルダ構造の詳細については、Windows のインストール ドライバを参照してください。
- ヒント Windows Server 2008 R2 の使用時にパフォーマンスが低下する場合は、オンボード Intel 82576 NIC 用の最新ドライバを、Intel のサイト <http://downloadcenter.intel.com> から直接入手してください。
- ステップ 11** Windows Device Manager を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認します。黄色のフラグが付いているフラグがあれば、Device Manager を使用してドライバを手動でインストールします。

ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール

ここでは、Cisco UCS Manager GUI と KVM コンソールを使用して、ブート可能 SAN LUN に Windows Server 2003 Service Pack 2 (SP2) x86 または x64 をインストールする方法について説明します。

はじめる前に

- インストールの前提条件のチェックリストとサービスプロファイル設定の前提条件に説明されている前提条件を満たします。
- SAN で LUN または RAID ボリュームを構成し、SAN に接続して SAN HBA から LUN へのパスが 1 つ (1 つのみ) 存在していることを確認します。

手順

- ステップ 1** 実際に取り付けているデバイスのドライバは、Cisco UCS B-Series Drivers DVD または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。

ヒント 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。デバイスが初期化されると、ブートプロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。詳細については、[インストール ドライバの情報](#)を参照してください。

ステップ 2 仮想メディアから OS またはドライバをインストールする場合、**KVM コンソール**を起動し、[インストール ISO イメージのマウント](#)の説明に従ってメディアをマウントします。

ステップ 3 次の手順で、マスタストレージコントローラまたは SAN HBA デバイス用のドライバ IMG ファイルをマウントします。

- a) [Add Image] をクリックし、デバイスとオペレーティング システムのドライバ IMG イメージファイルが含まれるディレクトリに移動します。
- b) IMG イメージファイルを選択し、[Open] をクリックします。
- c) デバイスをフロッピーとしてエミュレートするかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- d) [Client View] 領域で、IMG 仮想フロッピーに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。

ステップ 4 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。

- KVM コンソールの [KVM] タブを開き、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
- Cisco UCS Manager GUI で、[General] タブの [Actions] 領域の [Reset] をクリックします。
- 物理サーバの電源ボタンを押します。

ヒント サーバがインストール メディアからブートしない場合、[サービス プロファイル設定の前提条件](#)の説明に従って、関連するサービス プロファイルに正しいブート順が設定されていることを確認します。

ステップ 5 通常のブート順を上書きし、インストール メディアからブートするには、**KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブートメッセージを確認し、[Boot Menu] を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。

ステップ 6 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。

- ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
- 物理インストール ディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスク ドライブを選択し、Enter を押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが開始されます。

ステップ 7 CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。インストールプロセスの初期にウィンドウの下部に表示される [Press F6 to install third-party drivers] というメッセージに注意します。

重要 [Viking eUSB] と表示されているドライブには、Windows 2003 OS またはドライバをインストールしないでください。OS では、eUSB ドライブはローカル ドライブと同じと見なされますが、Cisco UCS Manager では、サーバのブート ドライブとして使用するローカル ドライブを指定できません。UCS Manager では、常に物理ローカル ドライブからサーバが起動され、内部 USB (eUSB) ドライブがあっても無視されます。

- ステップ 8** 仮想フロッピーからマスタストレージコントローラまたは HBA デバイスのドライバをインストールします。
- サードパーティのドライバをインストールするように求めるメッセージが表示されたら、F6 を押します。追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されるまで、インストールプロセスを確認します。
 - 追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されたら、S を押します。
 - リストからデバイスを選択して Enter を押します。
仮想フロッピーからドライバがインストールされます。
- ステップ 9** 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージにตอบสนองしてインストールを完了します。
Windows のインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Del を押し、ログインして Windows デスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。Windows インストールプロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。
- (注) この時点では、サーバチップセットやイーサネットコントローラなどのデバイス用のデバイスドライバがまだインストールされていません。**Windows Device Manager** で、ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。
- ステップ 10** **Windows File Manager** を使用して、手順 1 で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。ドライバ DVD フォルダ構造の詳細については、[Windows のインストール ドライバ](#)を参照してください。
- ヒント Windows Server 2008 R2 の使用時にパフォーマンスが低下する場合は、オンボード Intel 82576 NIC 用の最新ドライバを、Intel のサイト <http://downloadcenter.intel.com> から直接入手してください。
- ステップ 11** **Windows Device Manager** を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認します。黄色のフラグが付いているフラグがあれば、**Device Manager** を使用してドライバを手動でインストールします。

